

## 脱炭素チャレンジカップ2024 受賞結果

賞名	受賞団体名	都道府県	取組名称
環境大臣賞(5件)	環境大臣賞(グランプリ)	吉崎市	長崎県 「再エネとグリーン水素で目指せ!脱炭素の島」実現プロジェクト
	環境大臣賞(学生部門)	愛媛県立西条農業高等学校 食農科学科 チームパパイア	愛媛県 青パパイアグローバルプロジェクト! 地域課題解決に向けた取組
	環境大臣賞(ジュニア・キッズ部門)	取手市立取手西小学校	茨城県 共創!ワクワクの「脱炭素チャレンジフィールド」
	環境大臣賞(企業・自治体部門)	大成建設株式会社&株式会社カネカ	東京都 ビル壁面を活用した太陽光発電システムによる脱炭素化の推進
	環境大臣賞(市民部門)	#7年後も「住みやすい街大賞」1位とるぞ!藤沢プロジェクト	神奈川県 学校断熱を契機とした行政、議会、市民の連携による脱炭素の取組
文部科学大臣賞(2件)	文部科学大臣賞(社会活動分野)	自由の森学園中学校・高等学校	埼玉県 学園経営における脱炭素化とESDの実践
	文部科学大臣賞(学校活動分野)	国本小学校	東京都 「物の命を最大限延ばすために、わたしたちにできること!」
企業/団体賞(13件)	セブン-イレブン記念財団 最優秀地域活性化賞	山形大学農学部バイオマス資源学研究室	山形県 お米から肉!~脱脂米糠からの代替肉の製造~
	ユニ・チャーム 最優秀やさしさでささえる賞	横浜市立西前小学校	神奈川県 廃食用油を集めて飛行機を飛ばそう!
	ニトリ最優秀夢・未来賞	杉並区立西田小学校	東京都 食品ロス削減と脱炭素社会実現のためのミズコンポスト
	日本WPA 最優秀未来へのはばたき賞	南会津町 環境水道課	福島県 水道事業へ「新!脱炭素化策」~施設建屋の木質化プロジェクト~
	レンゴー 最優秀脱炭素未来づくり賞	熊本県立菊池農業高等学校 SDGsプロジェクト班	熊本県 竹資源を活用した持続可能な地域社会づくりを目指して
	いのちをつなぐSARAYA賞	長野県佐久平総合技術高等学校	長野県 エシカスフードでSAKE文化をリノベーション!
	炭素会計アドバイザー協会賞	東京工業高等専門学校流体工学研究室	東京都 サボニウス型風車の開発 ~エネルギー地産地消への挑戦~
	タンソーマンプロジェクト GX推進最優秀賞	株式会社 虎昭産業	東京都 全社一丸で創意工夫を積み重ねた食品工場の脱炭素への挑戦
	SOMPO環境財団 最優秀わくわく未来賞	三豊市立下高瀬小学校	香川県 STOP地球温暖化 ~もったいない!ありがとう・楽しく~
	ウェイトボックス 最優秀CO2の見える化賞	NPO法人環境とくしまネットワーク	徳島県 せとうち「ゴミ箱になった海」ブルーカーボンプロジェクト
	気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞	西宮市立山口中学校	兵庫県 未来にひろがれ!緑のカーテン
	オルタナ最優秀ストーリー賞	株式会社シェルター	山形県 脱炭素社会を実現する「木造都市◎」づくり
	再エネ100宣言 RE Action賞	株式会社イワタ	京都府 脱炭素を目指す寝具メーカーの循環型ものづくり
審査委員特別賞	NPO法人まめつてえ鬼無里	長野県 「きなさごこちP」里山の森と暮らしをつないで脱炭素地域に	
優秀賞	株式会社 渡会電気土木	山形県 地域資源のリサイクル活用と再生可能エネルギーの普及と開発	
	Love Earth Day	茨城県 LoveEarthDay 海と一緒にごみ拾いしない?	
	前田記念武蔵小杉クリニック	神奈川県 “コスト削減への取組”	
アイデア賞	獨協大学国際環境経済学科米山ゼミ地球温暖化防止プロジェクト	埼玉県 福島県田村市での脱炭素×MaaSを復興まちづくりに活かす提案	
	平松加代	千葉県 脱炭素ライフを育むスクール	
マクドナルドオーディエンス賞(3件)	国本小学校、吉崎市、Love Earth Day		



### 環境大臣賞グランプリ

企業・自治体部門  
長崎県

吉崎市

プレゼン動画はコチラ



## 「再エネとグリーン水素で目指せ!脱炭素の島」実現プロジェクト

トラフグ等の陸上養殖場において、日中は太陽光発電で電力供給し、その余剰電力を利用して水の電気分解による水素(RE水素)を製造・貯蔵し、夜間は蓄えたRE水素を用いて燃料電池で発電した電力を供給する実証システムを稼働させている。併せて、水の電気分解時に副産物的に発生する酸素と、水電解装置や燃料電池から発生する排熱を養殖魚の生育向上に有効活用する等、脱炭素と地域産品の高付加価値化を同時に実現する取組。



▲トラフグ陸上養殖場



▲「吉崎の未来エネルギー見学会」RE水素システム(太陽光発電設備)の見学



▲ 左から吉崎市の畑健太郎さん、篠崎道裕課長、環境省の井上室長補佐

### 審査コメント

再エネが増えると需要と供給のバランスをとるため、余剰時に水素を作ればよいと思いますが、実施するとなると難しく、吉崎市は先陣を切る本格的な取組でした。+αで酸素と熱も活用し、課題解決だけではないプラスの実証がありました。これから日本や世界で水素を使って再エネを安定化するとき、吉崎市の取組が必ずモデルとなると思います。ファーストベンチンという言葉がありますが、リスクを顧みず挑戦したお手本です。日本で初めて気候非常事態宣言を出したのも含めて、大きな意味があり、色んな課題を乗り越えて、再エネの安定化を目指してほしいです。

審査委員長 江守 正多

### 受賞者コメント

吉崎市が気候非常事態宣言を出したのは、気候変動の脅威を身につまされて感じているからです。再エネを増やしたいと思う気持ちがあり、この取組が日本全国にも広がってほしいと考えています。まだまだ課題は多いですが、まずは離島内で取組を深めていきたいです。



環境大臣賞 金賞 〈学生部門〉

学生部門 愛媛県立西条農業高等学校  
愛媛県 食農科学科 チームパイヤ

青パイヤグローバルプロジェクト!  
地域課題解決に向けた取組

私たちは、地域農業における鳥獣被害軽減や耕作放棄地の有効活用などに着目し、青パイヤ研究に取り組んでいます。地域課題解決に向けての栽培技術の確立を目指しています。また、農業生産と太陽光発電を両立する取組である農地転用ソーラーシェアリング事業を行っています。これによりカーボンニュートラルを実践し、持続可能な環境保全型農業を実現しています。



審査コメント

耕作放棄地の増加、高齢化による後継者不足、地球温暖化による環境変化、鳥獣被害の増加、地域の課題は大きいと思います。農業生産と太陽光発電を両立したソーラーシェアリング、パイヤの栽培は国内で初と聞きました。若者の発想力、実行力、地域の方が活動に共鳴、企業との連携など本当に素晴らしい取組でした。

審査委員 松井 敬司

受賞者コメント

初めて本大会に出場し、このような大きな賞をいただき、誠にありがとうございます。本校のパイヤの取組は7年目で、これからも続けていきたいと思っています。自分たちが住んでいる愛媛県西条市は、地球温暖化などで平均気温が上昇し、パイヤが育てやすくなっています。全国にパイヤを広めていく拠点としてPRもできないかなと思います。

プレゼン動画は  
こちら



環境大臣賞 金賞 〈企業・自治体部門〉

企業・自治体部門 大成建設株式会社&  
東京都 株式会社カネカ

ビル壁面を活用した太陽光発電  
システムによる脱炭素化の推進

人口・エネルギー密度の高い都市部におけるあらたな創エネを実現するため、ビルの壁や窓などの「外装材(ガラス)と一体化した高意匠で高機能な太陽光発電システム T-Green® Multi Solar」の開発と普及促進の取組を様々な関係企業と推進している。建物自身が発電することで再エネ性能を強化し、これを普及させることでZEBの拡大、ひいてはカーボンニュートラルの達成に貢献する。



審査コメント

まず2社がタッグを組み、強みを生かして脱炭素に取り組んでいる点が素晴らしいと思いました。太陽光パネルはスペースや景観の問題がある中、そういった障壁をクリアした製品であり、消費者目線としてはニーズオリエントドである点も感銘を受けました。これからも脱炭素社会に向けて支えていただければと思います。

審査委員 井上 昇

受賞者コメント

ビル丸ごと発電する地産地消エネルギーや災害時の電源利用などを啓蒙できたらと思い、今回応募しました。約10年前から取り組んでいますが、寿命の問題などの課題解決のため、カネカさんや他の企業にも力を借りて歩んできましたので、関係者の皆さまに感謝申し上げます。受賞の熱気を持ち帰って喜びを分かち合いたいと思います。

プレゼン動画は  
こちら



環境大臣賞 金賞 〈ジュニア・キッズ部門〉

ジュニア・キッズ部門 取手市立取手西小学校  
茨城県

共創!ワクワクの  
「脱炭素チャレンジフィールド」

「仮」脱炭素チャレンジの森(フィールド)づくりを目指し、使用頻度の低い遊具による発電、給食残渣肥料での土壌改良、カーボンオフセット植樹などを通して、自分たちができる「本気で脱炭素」アイデアを展開します。大学生や企業の方々とも協働して、どのくらいCO2が減らせたかも計算します。未来に向けた取手西小学校のSDGsの象徴にしていきたい。ぜひ今後のワクワクの結果をご期待ください。



審査コメント

データの根拠として57トンのCO<sub>2</sub>排出量を調べ、そこからアイデアを出して考え、校内で使えるものを見つけて取組を進めていった点が素晴らしいと思いました。評価して改善する学びの活動も素晴らしいかったです。みんながわくわくしてチャレンジしている点が続いている秘訣なのかなと思いました。

審査副委員長 尾山 優子

受賞者コメント

子どもたちの脱炭素チャレンジは、わくわくした気持ちが大変だと思っています。気候変動の危機的状況を説明した上で、学校の一画を「脱炭素チャレンジ広場」として子どもたちに任せただけが今回の取組です。受賞を機に、子どもたちのやる気にさらに火がついたのと、取り巻く教職員や企業にもその熱が伝わって、取組が発展していくのではないかなと思っています。

プレゼン動画は  
こちら



環境大臣賞 金賞 〈市民部門〉

市民部門 #7年後も「住みやすい街大賞」  
神奈川県 1位とろぞ!藤沢プロジェクト

学校断熱を契機とした行政、議会、  
市民の連携による脱炭素の取組

藤沢市議会議員と藤沢市と脱炭素について意見交換。2022年9月市議会に「公共施設の断熱性能の向上を求める陳情」「再エネ設備の導入促進を求める陳情」趣旨了承。藤沢市と信頼関係を構築し、2023年3月「学校断熱DIYワークショップ」を藤沢市立小糸小学校にて共催で実施。藤沢青年会議所と連携し9月に「エコ・フェスin江の島」を実施。住宅断熱促進のため市と共に講演会、住宅断熱DIYリフォームを企画中。



審査コメント

脱炭素チャレンジカップはプレゼン発表も評価していて、ラップの曲や映像から伝わってくるものが大きかったです。また、市民の力で行政を動かす、なおかつ、学校断熱の際、予算をクラウドファンディングで獲得する行動力も素晴らしいと思いました。脱炭素を達成する街は「住みやすい街」に違いありません。活動は始まったばかりですが、今後大きく広がるだろうという期待を込めて評価しました。

審査委員 岩谷 忠幸

受賞者コメント

私たちは普通の市民で、子育てしながら働きながら活動しています。チーム名は気候変動の分岐点である2030年まであと何年なのかを広めたいと思って名付けました。現在は建物由来のCO<sub>2</sub>排出量を減らすため、断熱に力を入れているが、脱炭素社会は生き物がたくさんいたり、ごみが少ない、住みやすい街だと思います。ラップを聞いてもらって、取組に興味をもってもらえるとうれしいです。

プレゼン動画は  
こちら





文部科学大臣賞〈社会活動分野〉

学生部門 自由の森学園中学校・高等学校  
埼玉県

学園経営における脱炭素化とESDの実践

学園経営分野では、再生可能エネルギーによる電力への切り替え(2014年)、さらにRE100(2019年)を達成した。熱供給分野では化石燃料からペレットボイラー(2009年)、薪ボイラー(2021年)を導入して地域の森林資源活用に転換した。教育実践においてもESDを重視し、中学では「森の時間」、高校ではESD講座を設けて持続可能社会を志向する教育を進め、ユネスコスクールに加入する。(2017年)



審査コメント

自由の森学園は子どもたちにすべて任せるのではなく、経営に脱炭素の方針を組み込んでいる点を社会活動分野として評価しました。2009年にペレットボイラーの導入、2014年に再生電力への切り替え、2019年には再生100%を達成、太陽光パネルの設置、薪ボイラーの導入など熱の分野で脱炭素の取組をすべて行ってられます。さらに生徒が天ぷら油を回収したり、包括的に取り組まれている点が素晴らしいと感じました。

審査委員 桃井 貴子

受賞者コメント

素晴らしい賞をありがとうございます。エネルギーのこと、生物多様性の保護などを総合的に取り組んでいるのが大事なのかなと思っています。先生から教えられるのではなく、聞いたり学んだりしたことを自分でどんなことができるのか考えてこれから実践していきたいと思っています。

プレゼン動画は  
こちら



セブン-イレブン記念財団  
最優秀地域活性化賞

副賞 広報誌「みどりの風」紙面への記事掲載

学生部門 山形大学農学部  
山形県 バイオマス資源学研究室

お米から肉!  
～脱脂米糠からの代替肉の製造～

日本を含むアジアを中心に主食として栽培されている水稲から副産される脱脂米糠は、タンパク質、ミネラル等の栄養成分を豊富に含んでいるのにも関わらず、その利用方法が限定している現状にあります。そこで、本研究室で確立した脱脂米糠から高タンパク含有画分を抽出する技術を用いて回収された、低アレルギーかつ高栄養価である本タンパク質から畜肉に似た代替肉の開発に取組ました。



審査コメント

地域のお米を無駄にしないこと、畜産から出る温室効果ガスの減少に寄与すること、学生が自ら考えて行動したこと、この3つの点を評価しました。山形県で、仮に代替肉の会社を立ち上げたとしても、そこに雇用が生まれたり、その肉が消費されるという、地域循環共生圏が生まれることが期待できます。財団としてはこのような地域活動を応援しています。

一般財団法人セブン-イレブン記念財団 事務局長 森永 仁

受賞者コメント

山形大学は庄内地方に位置し、稲作が盛んな地域です。脱脂米糠の副産を課題とする中、脱炭素を目指し、代替肉の開発に取り組んでまいりました。将来的には、私たちが開発した代替肉を皆さまのお手元に届けられたらと考えています。

プレゼン動画は  
こちら



文部科学大臣賞〈学校活動分野〉

ジュニア・キッズ部門 国本小学校  
東京都

「物の命を最大限延ばすために、わたしたちにできること!」

- ①気候変動の現状を理解する。
- ②企業の気候変動対策に対する取組を学ぶ。
- ③自分達にできるプロジェクトを立案し、実行する。

・服のチカラ/本のチカラプロジェクト  
物の命を最大限延ばすために、不要になった子ども服や本学園の制服、古本を回収。  
子ども服は企業や国際機関の協力を得て難民として苦しむ子ども達に送り、制服と古本は販売し、その収益を寄付。売れ残った古本は、3つの追加プロジェクトを立案。



審査コメント

「モノに命を吹き込もう」というリスペクトの考え方を核として持っておられて、皆さんと協力して活動を進めていった点の一つ評価しています。3,000人を超える協力を得る中で、商店街やスーパーの方にも声をかけて行動変容につなげる力は素晴らしいと思いました。また、洋服などの収益を寄付する先を子どもたちで議論したことは重要な学びとなっていると感じました。

審査副委員長 尾山 優子

受賞者コメント

国本小学校は世田谷区の私立校で、気候変動に対して比較的高いモチベーションを持っていると思います。未来を担う子どもたちが真剣に脱炭素のことを考え、できることは何だろうと行動する姿は教員として感動するものがあります。周りの大人が、子どもたちの思いや情熱をきちんとサポートしていけば、これから先も大丈夫なのではないかと考えています。

プレゼン動画は  
こちら



ユニ・チャーム最優秀  
やさしさでささえる賞

副賞 ユニ・チャームHP内での活動紹介

ジュニア・キッズ部門 横浜市立西前小学校  
神奈川県

廃食用油を集めて  
飛行機を飛ばそう!

当校の児童たちが、脱炭素社会、循環型社会の実現という視点から、環境にやさしい燃料(SAF)の国内生産をサポートする活動に挑戦します。国産SAF生産に関わる各種企業、団体、行政のサポートをいただきながら、学校、家庭、地域から出る廃食用油を回収する活動を行い、クラス → 学校 → 地域 → 社会全体へと活動を拡大し、広く発信することで、脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた行動変容を促します。



審査コメント

廃食用油を集めて飛行機を飛ばそうというテーマに夢を感じました。ユニ・チャームでも使用済みの紙パンツ(おむつ)を回収し、再度紙おむつの原材料に用いるリサイクルをしています。やはり回収は色々大変です。約200リットルもの廃食用油を集められた西前小学校の皆さんに敬意を表します。西前小学校は小中一貫校と伺っています。ぜひ、今回の活動を小学5年生の一年間に限定することなく、中学校にも広げて欲しいと思います。ユニ・チャーム株式会社 上席執行役員 ESG本部長 上田 健次

受賞者コメント

受賞してうれしい気持ちです。色んな人に廃食用油を集めてもらい、とてもうれしかったです。

プレゼン動画は  
こちら





ニトリ  
最優秀夢・未来賞

副賞 記念品贈呈

ジュニア・キッズ部門  
東京都

杉並区立西田小学校

食品ロス削減と脱炭素社会実現のためのミミズコンポスト

学校給食で出た残飯や古新聞、各家庭から出た生ごみ等をミミズコンポストに入れ微生物やミミズの力を借りて土を作る取組です。初めは自然を増やしたいという思いで活動を始めました。自然を増やすためには生態系のピラミッドがしっかりと保たれる必要があると考えました。その土台と考えた土を増やす事によって自然が増え、その餌となる生ごみが減ってそれによりCO2が減る=温暖化を防げる取組です。



審査コメント

「自然のむげんループ」に着目されたことで、食品ロスの削減・ごみの削減・脱炭素だけでなく、資源循環や生物多様性にもつながる、大変素晴らしいお取組でした。また、「小さなことから積み重ねていきたい」という児童の皆さまの強い意志に、大変感銘を受けました。まさに、「脱炭素への取組を通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来をみんなで築いていく」という想いを込めた「ニトリ最優秀夢・未来賞」との親和性が高いと考え、賞の授与をさせていただきました。

受賞者コメント

小学3年生のときから5年生まで続けている活動で、小さなことでも大きなことにつながるのだと思いました。他の学年や地域の人にもコンポストをぜひやってもらいたいです。

プレゼン動画はコチラ



株式会社ニトリホールディングス SDGs推進室 室長 奥田 理



レンゴー最優秀  
脱炭素未来づくり賞

副賞 段ボール製トロフィーの贈呈

学生部門  
熊本県

熊本県立菊池農業高等学校  
SDGs プロジェクト班

竹資源を活用した  
持続可能な地域社会づくりを目指して

学校で栽培する農作物への小動物の被害がきっかけで、放置竹林が鳥獣被害の原因になることや豪雨災害の被害拡大の要因になるなどの竹林問題を知りました。4年前から地元NPO法人との放置竹林の整備や伐採した竹で竹灯籠や三角灯籠づくりワークショップ、竹チップ発酵肥料づくりを行っています。昨年から竹チップを段ボール生ゴミコンポストの資材として活用したり、バイオ竹炭づくりを始め、地域にも情報発信を行っています。



審査コメント

レンゴーは段ボールを製造する会社です。段ボールはリサイクルが進んでいる製品ですが、生分解性という優れた段ボールの機能を使っていたことに感謝します。竹林を保護する観点からコンポストの活動につなげるなど、高校の活動を自治体など地域に広げている点が素晴らしいです。今後も続けてもらいたいです。

レンゴー株式会社 環境経営推進部 部長 矢野 琢司

受賞者コメント

先輩から引き継いできた、竹のプロジェクトが皆さんに認められ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも応援していただけたらうれしいです。

プレゼン動画はコチラ



日本WPA最優秀  
未来へのはばたき賞

副賞 HPでの紹介及び、特製盾の贈呈

企業・自治体部門  
福島県

南会津町 環境水道課

水道事業へ「新!脱炭素化策」  
- 施設建屋の木質化プロジェクト -

水道施設建屋に木材パネル構法(以下をNLT:Nail Laminated Timberとする)で木質化し、経営持続、森林再生、脱炭素化に貢献する取組である。これまで一般的に構造物強度を求め、鉄筋コンクリート(以下:RC)造が望まれ整備されてきた。しかし当町は、地域事情や既存建屋で顕著な水道施設特有の環境下で生じる経年化等を懸念し、身近な森林資源を「モノ」の経営資源に転換を行った。



審査コメント

我々は全国で「水なし印刷」という環境負荷の少ない印刷を行う団体です。実は紙は間伐材も使うことで森林を育てていますが、今はペーパーレス化も進んでいます。南会津町のように木の力を使うことでCO2を吸収し、サーキュラーエコノミー・脱炭素の実現に進んでいくと思います。木の力をお互いに広めていく団体として頑張っていけたらと思いました。

一般社団法人日本WPA 会長 奥 継雄

受賞者コメント

南会津町は、福島県と栃木県との県境にある町です。森林資源が豊富にあることに着目して、その資源を転換して、水道事業に活かしてきたのが、今回の取組です。珍しい取組ではないですが、他の地域でも木の力を使ってもらえたらうれしいです。

プレゼン動画はコチラ



いのちをつなぐ  
SARAYA

サラヤ株式会社  
いのちをつなぐSARAYA賞

副賞 エコブランド「ハッピーエレファント」シリーズ商品の贈呈

学生部門  
長野県

長野県佐久平総合技術高等学校

エシカスフードで  
SAKE文化をリノベーション!

本校が位置する長野県佐久市は、市内だけで11歳元を有するほど日本酒造りが盛んで、佐久地域の食文化を支えている。一方で、日本酒造りの“残りかす”である酒粕は、近年需要が低迷し、産業廃棄物として処分される量が増えている。私たちは地域企業と連携して酒粕の需要拡大やSDGsの推進・啓発に係る環境活動に取り組んでいる。昨年度からは新たに、小中学生を対象に学校給食を通じた食育活動にも取組始めた。



審査コメント

数年間に渡り、地元の食文化を支える日本酒造りから排出される酒粕の問題について、ガラスの垣根を越えて酒粕の需要拡大やSDGsの推進・啓発を行い、地元飲食店との商品開発など新たな価値創造に加え、同様の問題を抱える他地域との連携など、地域を超えた活動に取り組まれています。今後も持続可能な社会の実現を目指し、留まることなく様々な取組を進めていただければと思います。

サラヤ株式会社 コミュニケーション本部 広報宣伝統括部  
コンシューマー事業本部 プロモーション部 森 樹里

受賞者コメント

この活動は学校の先生や生徒、地域の団体からも支援をもらって実施できていますので、感謝申し上げます。第2弾としてラーメン開発などもしていますが、酒粕の魅力を日本全国、ひいては世界に届けられるよう今後も活動していきたいです。

プレゼン動画はコチラ



一般社団法人  
炭素会計アドバイザー協会  
炭素会計アドバイザー  
協会賞

学生部門  
東京都  
東京工業高等専門学校  
流体工学研究室

## サボニウス型風車の開発 ～エネルギー地産地消への挑戦～

東京工業高等専門学校流体工学研究室では、脱炭素社会を実現すべく、サボニウス型風車の研究、開発を行っている。サボニウス型風車は都市部での利用に優れるため、サステナブルなまちづくりを推進することができる。本科5年生が取り組む卒業研究では、実用化に向けた風車の改良が行われ、本科4年生が取り組む社会実装プロジェクトでは、地元企業との連携による風車設置プロジェクトが進められている。



副賞  
木製の記念楯の贈呈

### 審査コメント

ネットゼロはイノベーションを前提に考えているので、今、実現していない技術にどんどん挑戦してもらいたいと思っています。当協会は国際ルールを理解した人材育成を目指すため、資格試験を1万5千人ほどに受講いただきました。未来に誇れる技術を生み出すために、今後も若い能力を発揮してほしいです。

一般社団法人炭素会計アドバイザー協会 副理事長 山田 英司

### 受賞者コメント

先輩たちの代から引き継いできた活動がこうして表彰され、感謝いたします。風車は、都市の中でビル風を利用して少しでも街灯を灯すことができれば、電力抑制につながるかと考えた取組です。今でもプロジェクトは続いているのですが、私たちは卒業するため、今後も後輩につなげていきたいと思っています。

プレゼン動画は  
コチラ



タンソーマンGX  
tanso-man GX  
タンソーマンプロジェクト  
GX推進最優秀賞

副賞  
HP掲載、タンソチェック1年間無料ライセンス、  
ディズニーランドペアチケット(2枚)

企業・自治体部門  
東京都  
株式会社 虎昭産業

## 全社一丸で創意工夫を積み重ねた 食品工場の脱炭素への挑戦

当社でエコアクション21の取組を開始した2019年以降、設定した2030年CO2排出削減目標に向けて、オンサイトPPA電力購入、廃熱回収など種々の取組を実施したが、CO2排出量を減らすため踏み切った低CO2排出係数電力購入先が破綻。その困難を乗り越えるため全社一丸となり創意工夫を積み重ね、2022年度排出量はピークであった2017年の11,600トンから7,600トンまで34.5%削減した。



### 審査コメント

弊社は脱炭素を支援する活動を行っています。CO2排出量を削減しないと、ネットゼロは達成しないわけで、工場を脱炭素化することは効果的だと考えていました。何千トンものCO2を削減することは並々ならぬ努力があったかと察します。その苦勞に敬意を表し、本アワードを通じて選ばせていただきました。

株式会社タンソーマンGX 代表取締役 福元 惇二

### 受賞者コメント

素晴らしい賞をいただいたこと、お礼申し上げます。当社は、おいしく食べてもらうためにイノベーションを重ねて参りました。フードロス削減に続いて、二酸化炭素を減らす取組は全従業員が一丸となって取組ました。これからも将来に負の遺産を残さないようにますます頑張っております。

プレゼン動画は  
コチラ



公益財団法人 SOMPO環境財団  
SOMPO環境財団  
最優秀わくわく未来賞

副賞  
記念品贈呈

ジュニア・キッズ部門  
香川県  
三豊市立下高瀬小学校

## STOP地球温暖化 ～もったいない・ありがとう・楽しく～

4年生が中心となり、地球温暖化防止を目的に省エネ活動を展開した実践です。キーワードは、「もったいない」「ありがとう」「楽しみながら」です。4年生は、専門機関や大学、企業、他校と連携しながら、自分たちにできることを考え、実践し、発信してきました。今では、4年生の発信から全校生に広がり、全校生で省エネ活動に取り組んでいます。また、家庭にも活動成果を発信し、省エネ活動の広がりを進めています。



### 審査コメント

楽しく取り組んでいる様子が素晴らしかったです。疑問に思ったことを企業を巻き込み学びを深め、自分たちの取組として憲法を定め、周囲を巻き込み発信をすることで取組の輪を広げている点も見事でした。一人ひとりの力は限られていますが、巻き込む力によりムーブメントを作れると思います。これからも「行動力」と「楽しく学ぶ」ことを続けてほしいです。

公益財団法人SOMPO環境財団 事務局長 鈴木 順子

### 受賞者コメント

下高瀬小学校では、段ボールコンポストや動画制作なども新たに始めています。国税局さんの出前授業なども生かして省エネに取り組んでいます。これからも次の世代に省エネの取組を引き継げるようにがんばります。

プレゼン動画は  
コチラ



WasteBox  
ウェイトボックス  
最優秀CO2の見える化賞

副賞  
木製の記念楯の贈呈及びHP掲載

市民部門  
徳島県  
NPO 法人環境とくしまネットワーク

## せとうち「ゴミ箱になった海」 ブルーカーボンプロジェクト

本プロジェクトは、脱炭素から繋がる私たちが展開可能な「ブルーカーボン」活用として瀬戸内海の家ゴミ環境を通じ「見て知って学ぶ、そして、繋がり行動する」まるで「ゴミ箱化した瀬戸内海」を多くの地域、仲間と繋がり尊重することで、未来に約束をする活動となりました。活動をより多く方に伝えるために、流木や海岸石のアート活用や空撮等多様な活動を通して、次世代に「せとうち未来スケッチ」として引き継ぐ事です。



### 審査コメント

ウェイトボックスはそもそもゴミ箱という意味であり、貴団体の「海はゴミ箱ではない」というメッセージに共感しました。資源循環を大切に思っている中で、海に漂着するごみ、海洋プラスチックごみの問題解決は重要です。循環型社会の形成につながる点をポイントに選ばせていただきました。株式会社ウェイトボックス 代表取締役 鈴木 修一郎

### 受賞者コメント

私たちの活動場所は、瀬戸内海の鳴門海峡に近い海岸で、観光客はごみの浜を見て船に乗っていきま。ごみは見えない範囲にもあり、そのことを恥ずかしいと感じて清掃活動を始めました。清掃活動は、瀬戸内海の産業を守ることもつながっています。

プレゼン動画は  
コチラ





気象キャスターネットワーク  
最優秀市民・学校エコ活動賞

ジュニア・キッズ部門  
兵庫県

## 西宮市立山口中学校

### 未来にひろがれ!緑のカーテン

山口中学校では、ゴーヤの苗を育てて緑のカーテンをつくりました。最初は1クラスでの取組でしたが、夏場の水やりには全校生が協力しました。また、植物の光合成や蒸散作用により、脱炭素への取組につながりました。さらに、日陰をつくりことにより、エアコンの設定温度を適切に設定し、エネルギーの有効活用と地球温暖化防止に努めることができました。



#### 審査コメント

緑のカーテンはみんながよく知る活動ですが、本当にエアコンの温度を下げられるなど、データとして示してくださったところに意味があると感じました。新しい工夫も大事ですが、今までの活動を地道に行っていくことも大切です。若い人の柔軟な頭で、難しくない楽しい取組を今後も期待しております。

NPO法人気象キャスターネットワーク 理事長 井田 寛子

#### 受賞者コメント

緑のカーテンづくりを通じて、脱炭素に挑戦できたことに改めて感謝申し上げます。生徒からは「毎日水やりしていたら、ゴーヤが自分の背を越えて驚いた」、教員からは「ゴーヤが伸びていく姿に力をもらった」と取組に感想を寄せてくれました。誰でもどこでもできるような活動ですが、認められてとてもうれしいです。

プレゼン動画は  
コチラ



再エネ100宣言 RE Action賞

企業・自治体部門  
京都府

## 株式会社イワタ

### 脱炭素を目指す寝具メーカーの循環型ものづくり

「作る」「使う」「棄てる」の各段階で資源の消費と廃棄物の発生を減らしながら、その循環を通して新たな製品を生み出す「サーキュラーデザイン」を推進中です。再エネ電力を採用したり、製品寿命を延ばしたり、再利用したり、使い道のないゴミを減らしたりすることは、ものづくりの大切な役割、炭素排出削減に繋がる活動と考えています。2022年は再エネ電力、Jクレジットを活用し、全社で再エネ率100%を達成しました。



副賞 インタビュー動画作成

#### 審査コメント

再エネ100宣言 RE Actionの参加団体は、使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進しています。株式会社イワタは既に再エネ100%を達成しているだけでなく、サーキュラーエコノミーにも取り組んでおり、さらに創業190年のサステナブルな企業であることが評価され、選出に至りました。

#### 受賞者コメント

弊社は、2020年に「自然との調和は眠りから」というパーパスを設定し直した際、再エネ100宣言 RE Actionに加盟させていただきました。2022年には、再エネ電力の採用とJクレジットの組み合わせで再エネ100%を達成いたしました。また、長く使えるモノづくり「サーキュラーデザイン」を心掛けています。受賞をスタッフのみならず喜びを分かち合いたいと思います。

プレゼン動画は  
コチラ



「あ」のソーシャル・ビジネス・マガジン  
alterna オルタナ最優秀ストーリー賞

企業・自治体部門  
山形県

## 株式会社シェルター

### 脱炭素社会を実現する「木造都市®」づくり

当社は日本初の接合金物工法「KES構法」と木質耐火部材「COOL WOOD」により、伐採期が到来した国産材・地域産材を活用して、都市に大規模・中高層木造ビルをつくる「木造都市」づくりに取り組んでいる。木造都市の実現によって国産材・地域産材の需要が拡大し、森林循環が促進される。また、需要地の都市と供給地の地方のサプライチェーンが強くなり、林業・関連産業が活性化、都市再生と地方創生が同時に達成できる。



副賞 雑誌「オルタナ」への記事掲載と冊子提供

#### 審査コメント

日本は森林面積が7割を占める一方で、国産材の利用が十分に進んでいない現状があります。シェルターは2017年に日本で初めて木質耐火部材の3時間耐火認定を取得しました。これにより、15階建て以上の木造高層ビルが建てられるようになったのです。山形県の会社がこうしたイノベーションを起こしたことに勇気づけられました。

株式会社オルタナ 副編集長 吉田 広子

#### 受賞者コメント

木造建築を取り巻く環境は目まぐるしく変化しております。十数年前まで、木造建築という神社や仏閣をイメージする方が多かったと思います。ここ数年は、脱炭素やSDGsという観点から、木造建築が再注目され、高層階の木造ビルプロジェクトも進行しています。今回の受賞を励みにして、今後も精進してまいります。

プレゼン動画は  
コチラ



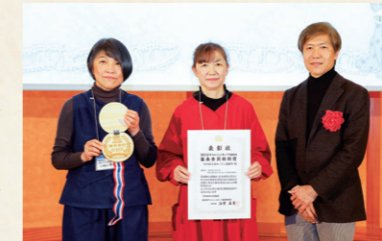
## 審査委員特別賞

市民部門  
長野県

## NPO法人まめってえ鬼無里

### 「きなさごこちP」里山の森と暮らしをつないで脱炭素地域に

過疎化が進む地域の困り事<荒れた森><老朽化した古民家><耕作放棄地>は、見方を変えると脱炭素地域づくりのための大切な資源。①森林整備②薪エネルギーの普及③古民家の再生④遊休農地の活用を連動させ、今の暮らしに適合させた地域づくりが「きなさごこち」プロジェクトです。かつては食もエネルギーも自給していた村の時代に学びながら、これからの地域のあり方を参加者と共に考え創り出す機会と場所を提供しています。



#### 審査コメント

地域で人口が減って里山が荒廃している中、資源が豊富にあることを逆にとり、ポジティブな姿勢を持っておられるところが素晴らしいと思いました。50年前を参考にしながらも、今ある太陽光パネルや性能の良いバイオマスボイラーを使って、新しい持続可能な社会を作っていくとされているところが他の地域の参考になると感じました。

審査委員長 江守 正多

#### 受賞者コメント

私たちは「食とエネルギーを自給して地域を元気にしよう」ということで活動してきました。目新しい活動ではないですが、鬼無里という土地が大好きで中山間地域のモデルになると確信しております。高齢化・過疎化は私たちの手では止められず、農山村の暮らしは時代遅れのように感じるかもしれませんが、実は古いものと新しいものを組み合わせることで最先端のポテンシャルになると感じています。

プレゼン動画は  
コチラ



優秀賞

企業・自治体部門 山形県 **株式会社渡会電気土木**

**地域資源のリサイクル活用と再生可能エネルギーの普及と開発**

弊社は、木質ペレット、木質チップの生産・販売を行い二酸化炭素の削減に寄与してまいりました。そのノウハウを基にプラントを施工していましたが、近年では、木質資源の枯渇している外国に向けて農業残渣を燃料の原料としたペレット生産プラントの施工を行い、また企業からの依頼で廃棄するしかなかった食品残渣をペレット化するプラントを施工しています。

**受賞者コメント**

私たちは山形県の農業地域で、何かできることはないかと思い、食品残渣をペレットにする取組を始めました。木材の減少が懸念されているので、代替燃料として注目されています。ペレット化の問い合わせもきています。

プレゼン動画



ジュニア・キッズ部門 茨城県 **Love Earth Day**

**Love Earth Day 海で一緒にごみ拾いしない?**

Love Earth Dayは、茨城県ひたちなか市の海岸にて、ビーチクリーンをメインに活動しているボランティア団体です。Kidsを中心に地球愛や環境、教育イベントを楽しんでいます。地球の現状を「ビーチクリーン」を通して体感し、「持続可能」で「楽しく」継続活動に繋げていくため、海ゴミアート&アクサセラーづくりなどの海ゴミ工作や磯の学習によるブルーカーボンの生育推進に発展させています。

**受賞者コメント**

まさかこのような舞台上に立てるとは思ってもいませんでした。アフリカから戻ってきて犬の散歩をしているときに海のごみを見てびっくりしたのがきっかけでこの活動が始まりました。アフリカではホームレスの方がビーチを綺麗にします。同士と今後も活動していきたいです。

プレゼン動画



企業・自治体部門 神奈川県 **前田記念武蔵小杉クリニック**

**“コスト削減への取組”**

透析クリニックとして大量の水をを精製して透析用水を使用しているが、その際、原水を昇温させるのに排液熱回収システムを導入し、その成果は機器単体で、年間約27%節電。2018年より院内の省エネ対策の強化2022年7月～蛍光灯(312本)をLEDへ変更し単体で72%の節電となり、2022年の年間の電気使用量は2014年と比較して総透析回数は16%増加したが、全体で10%の節電となった

**受賞者コメント**

透析をするとき、水を多く使い、それを精製するために大きなエネルギーを使います。そのエネルギーを抑えるため、企業と相談し、省エネを進めてきました。全国のクリニックでも、同じ会社の者が省エネを進めているが、まだ少ないです。人口の増加とともに透析患者が増えていますが、今後も活動を続けていきたいです。

プレゼン動画



マクドナルドオーディエンス賞

副賞 ハンバーガー商品券1年分

**審査方法**

マクドナルドオーディエンス賞は、視聴者のWEB投票によって受賞団体が決定する賞です。YouTubeで公開したプレゼンテーション動画を視聴し、最も感銘を受けた2団体に投票&YouTubeの高評価ボタンで投票できます。(1人3票まで)全24団体のプレゼン動画の再生回数は、延べ1万3千回(2024/1/15~2/5正午)に達し、大きな反響となりました。総投票数3,043票の結果、上位3団体がマクドナルドオーディエンス賞に決定しました。



▲ 左から香枝市の2名、国本小学校の2名、Love Earth Dayの2名、日本マクドナルド㈱の飯澤マネージャー

ジュニア・キッズ部門 東京都 **国本小学校**

**「物の命を最大限延ばすために、わたしたちにできること!」**

**受賞者コメント**

我々は子どもたちの活動だけでなく、企業、地域の商店街の皆さま、様々な方々と連携してきましたので、関係者の皆さまに感謝したいです。

プレゼン動画



▲ 齋藤悠真教頭先生

企業・自治体部門 長崎県 **香枝市**

**「再エネとグリーン水素で目指せ!脱炭素の島」実現プロジェクト**

**受賞者コメント**

香枝市は長崎県の離島で、日本のモデルとなるような脱炭素な取組を行っています。ちなみに香枝市にはマクドナルドがありませんが、どこかで皆と食べに行きたいと思っています。

プレゼン動画



▲ 篠崎道裕課長

ジュニア・キッズ部門 茨城県 **Love Earth Day**

**Love Earth Day 海で一緒にごみ拾いしない?**

**受賞者コメント**

私たちは常に楽しく、地球愛をもって活動しています。このような賞をもらえてとてもうれしです。ありがとうございます。

プレゼン動画



▲ 左から穂山 こころさんとパーズルマ サヨさん



副賞「ハンバーガー1年分」が日本マクドナルド株式会社コミュニケーション&CR本部 サステナビリティ&ESG部の飯澤雄三マネージャーから贈られました。

